

① 2021年度理事長所信

一般社団法人もとみや青年会議所 2021年度 理事長所信(案)

一般社団法人もとみや青年会議所
2021年度理事長予定者
石橋 宏章

《スローガン》

心豊かな令和へ
～人と人の心を繋ぎ地域愛を育む～

《基本理念》

人と人が繋がりをもち、心の豊かさを育む

《基本方針》

1. 次世代へ繋ぐ組織づくり
2. JC の魅力と価値を共有する会員拡大
3. 人と人の心を繋ぐまちづくり
4. 地域を想うひとづくり

《事業計画》

1. 次世代へ繋ぐ組織づくり事業
2. JC の魅力と価値を共有する会員拡大事業
3. 人と人の心を繋ぐまちづくり事業
4. 地域愛を育む 35 周年事業

— はじめに —

1987年、明るい豊かな社会の実現を理想とし、責任感と情熱を持った青年有志が集まり、もとみや青年会議所は設立されました。設立から現在まで、先輩諸兄は地域を想い愛し、様々な運動活動を行ってこられました。

2020年、人類は新型コロナウイルスの影響で、感染防止と経済活動の両立という難しい時期に生きています。日本においても様々な施策を実行してはいるものの、生活様式の変化や経済の低迷が重圧になっています。

地域社会に目を向けると、経済の疲弊、教育環境の変化、コミュニティへの影響などがあり、特に本宮市では令和元年東日本台風被害の復興道半ばの状態での新型コロナウイルス感染症の影響を受けることになりました。

世界的なグローバル化のなかで、地域や隣人との繋がりが希薄になってきているところに、新しい生活様式の呼びかけで、人と人の心は離れ、地域社会や家族にも距離が生まれたような気がします。

多くの人は満足度の高い生活を送りたいと望んでいると思います。満足度が高いとは何でしょうか。私は満足度の高さを「心の豊かさ」と定義します。「心の豊かさ」とは精神的な充足感や安心感であり、人と人との繋がりで得ることができると考えます。

「令和」という元号には“人々が美しく心を寄せ合う中、文化が生まれ育つ”という意味が込められています。私は「令和」という時代が、人と人が繋がり育む過程で心の豊かさを作る時代だと期待し、スローガンを「心豊かな令和へ」としました。厳しいコロナ禍だからこそ、このスローガンの下、共助の精神で心豊かな地域生活の実現に向けて、青年会議所は活動をしていきます。

— 次世代へ繋ぐ組織づくり事業 —

青年会議所は様々な価値観を持った青年経済人の集まりです。メンバーがそれぞれの役割を果たすことで組織として機能し、メンバー全員が青年会議所の理念のもとで運動しています。

組織として最大限の力を発揮するためには組織が示す方向性を会員全てが理解し、それぞれの活動状況を全員で共有することが必要です。

青年会議所の理念を共通の目的とし、青年会議所のルールに基づく各所会議の運営や委員会活動を行うことで、しっかりとした組織を次世代に残すことができると考えます。また、諸会議ではメンバーの貴重な時間をお預かりしていることをしっかりと意識し、議論の目的を明確にすることで建設的な議論がスムーズに行われるように運営を実施します。

— JC の魅力と価値を共有する会員拡大事業 —

青年会議所の運動活動において会員数を確保することは重要です。会員は運動活動を行う原動力であり、組織の力だからです。しかしながら、近年、当会議所では卒業会員数に対して新入会員が下回っているのが現状です。

会員数の減少により組織力の低下や事業の縮小が懸念され、会員拡大は喫緊の課題です。会員数の減少には様々な理由が考えられますが、入会会員数を増やすためには、青年会議所の理念や魅力を理解してもらうことが大事だと考えます。

もとみや青年会議所の魅力を知ってもらうためにホームページや SNS を活用し、青年会議所の運動活動を継続的に発信します。また、情報のネットワークを活用し、積極的に人と人の繋がりを広げ、情報発信から意識共有を図ります。

私たちの活動を知ってもらうことで地域を知り地域を想う気持ちが大きな輪となり、会員数の増加に繋がるように、メンバー全員で会員拡大を目標に挙げ、組織力の強化に挑んでいきます。

— 人と人の心を繋ぐまちづくり事業 —

現在、日本では、核家族化や、職場や地域における付き合いが部分的また形式的に進むなど、繋がりを求めるよりもむしろ個人化を求める傾向が進み、人と人の心の距離も大きくなっております。

しかし、人と人が繋がりをもち、その繋がりを育てていく過程の中で充足感や安心感という心の豊かさ、すなわち、ものの豊かさによっては満たされない満足感を見出すことができると考えます。

繋がりを得るためには共感が必要です。地域の歴史や文化に根ざした共通の価値観を共有することで、共感を得ることができます。

地域の価値の再発見や、他地域との対比による地域の宝再確認といったことが、地域の共感を導くと考えられます。そのためには、地域の変遷、歴史、風習の背景などの発見が必要であると思います。また、2017年度から続いている英国との国際交流を通し、異文化や多様な価値観に触れることで、地域を深く考えるきっかけになると考えます。

地域社会は先人の様々な営みで創られたものであり、様々な魅力に満ちていることを学び発信していくことで、地域の中で人と人の繋がりの輪を広げていきます。

— 地域愛を育む 35 周年事業 —

もとみや青年会議所は 35 周年を迎えます。創立から現在まで、先輩は時代のニーズに合わせ柔軟な青年会議所運動を続けてこられました。そのおかげもあり、もとみや青年会議所は地域にはなくてはならない団体の一つとして位置づけをされております。35 周年という節目と、コロナ禍という大きな曲がり角にあるこの時期に、にもう一度、青年会議所の意義を再確認する必要があります。

コロナ禍によって生活様式や教育の環境、経済活動に大きな変化をもたらしました。従来の当たり前が通用しない環境の中で、私たちが地域で何をしなければいけないのかをしっかりと考えて形にしていきたいと考えています。また、周年事業は、過去の事業を振り返り、そのうえで後進に続く人達への新たなビジョンを描く機会としていきます。

— 結 び に —

コロナ禍での出発となる今、手をこまねいては何も進みません。私たち人類は、ペストやスペイン風邪を乗り越えて今を生きています。コロナ禍は困難ではありますが、乗り越えなくてはなりませんし、乗り越えることができると信じています。

ペスト流行の 14 世紀には電話もありませんでした。スペイン風邪が流行した 20 世紀初期にはインターネットがありませんでした。いずれの時代でもテレワークの概念自体がありませんでした。しかし、現在ではテレワークがあり一部の産業では出勤なしで仕事ができる時代です。新型コロナウイルスの流行が 10 年早ければ、産業界の対応は異なっていたでしょう。

しかしながら、心の豊かさを考えたとき、テレワークが可能だから心の豊かさを確保できるわけではありません。このような異常事態だからこそ、青年会議所は人と人の繋がりに重心をおいた理念で、心の豊かさを求めた運動活動をしていくべきだと思います。

私は、青年会議所でしか出会えなかった仲間と、運動活動を通じて地域のニーズや課題を考えることができたばかりではなく、故郷の素晴らしさや可能性を知ることができました。地域を想い愛することで新たな価値観を発見し、成長することに繋がったと思います。

私を成長させてくれた青年会議所に感謝し、また、35 年間の活動の成果をメンバーと共有し、次の時代につながってまいります。

最後に、信頼できるメンバーと共に、心豊かな地域社会の実現に向けて鋭意努力してまいります。一年間どうぞよろしくお願いいたします。